

## 基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	学部設置									
フリガナ設置者	がっこうせいげん meidai daigaku 学校法人 明海大学									
フリガナ大学の名称	meidai daigaku 明海大学 (Meikai University)									
大学本部の位置	埼玉県坂戸市けやき台1番1号									
大学の目的	明海大学は、教育基本法ならびに学校教育法の定めるところに従い、広く一般教養および専門教育の学術を教授研究し、社会性、合理性、創造性豊かな人材を育成すると共に、人類共存の理念に基づき広く社会の発展に貢献することを目的とする。									
新設学部等の目的	保健医療学部口腔保健学科は、国際未来社会で活躍し得る人間性、感性に富む歯科衛生士を育成するため、広く知識を授け、口腔保健学分野における学識、臨床能力及び研究能力を培うことを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	保健医療学部 (School of Health Sciences) 口腔保健学科 (Department of Oral Health Sciences)  計	4年	70人	-	280人	学士 (口腔保健学)	平成31年4月 第1年次	千葉県浦安市明海1丁目2-1		
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	外国語学部 英米語学科 [定員減] (△ 40) (平成31年4月) (平成30年4月届出済み) 中国語学科 [定員減] (△ 30) (平成31年4月) (平成30年4月届出済み)									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	保健医療学部 口腔保健学科	講義	演習	実験・実習	計	125単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等		
	新設分	保健医療学部 口腔保健学科	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	
			人	人	人	人	人	人	人	
			10	1	5	0	16	0	39	
			(10)	(1)	(5)	(0)	(16)	(0)	(35)	
		計	10	1	5	0	16	0	39	
			(10)	(1)	(5)	(0)	(16)	(0)	(35)	
	組織の概要	外国語学部								
		日本語学科		6	1	1	0	8	0	17
				(6)	(1)	(1)	(0)	(8)	(0)	(17)
		英米語学科		7	5	1	0	13	0	20
				(7)	(5)	(1)	(0)	(13)	(0)	(20)
		中国語学科		3	2	3	0	8	0	23
				(3)	(2)	(3)	(0)	(8)	(0)	(23)
経済学部 経済学科		10	9	5	0	24	0	37		
		(10)	(9)	(5)	(0)	(24)	(0)	(37)		
不動産学部 不動産学科		9	6	1	0	16	0	30		
		(9)	(6)	(1)	(0)	(16)	(0)	(30)		
ホスピタリティ・ツーリズム学部 ホスピタリティ・ツーリズム学科		16	1	1	0	18	0	27		
		(16)	(1)	(1)	(0)	(18)	(0)	(27)		
外国語学部、経済学部、不動産学部、ホスピタリティ・ツーリズム学部共通(一般教養)		3	1	0	0	4	0	17		
		(3)	(1)	(0)	(0)	(4)	(0)	(17)		
総合教育センター		0	2	7	1	10	0	10		
		(0)	(2)	(7)	(1)	(10)	(0)	(10)		
複言語・複文化教育センター		1	1	9	1	12	0	59		
		(1)	(1)	(9)	(1)	(12)	(0)	(59)		
教職課程センター		2	3	0	0	5	0	2		
		(2)	(3)	(0)	(0)	(5)	(0)	(2)		
歯学部 歯学科		26	23	30	49	128	0	109		
		(26)	(23)	(30)	(49)	(128)	(0)	(109)		
計		83	54	58	51	246	0	-		
		(83)	(54)	(58)	(51)	(246)	(0)	(-)		
合計		93	55	63	51	262	0	-		
		(93)	(55)	(63)	(51)	(262)	(0)	(-)		

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計				
	事 務 職 員		113人 (113)	59人 (59)	172人 (172)				
	技 術 職 員		13 (13)	0 (0)	13 (13)				
	図 書 館 専 門 職 員		11 (11)	12 (12)	23 (23)				
	そ の 他 の 職 員		8 (8)	9 (9)	17 (17)				
	計		145 (145)	80 (80)	225 (225)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	163,846.49 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	163,846.49 m <sup>2</sup>				
	運 動 場 用 地	87,505.16 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	87,505.16 m <sup>2</sup>				
	小 計	251,351.65 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	251,351.65 m <sup>2</sup>				
	そ の 他	28,941.11 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	28,941.11 m <sup>2</sup>				
	合 計	280,292.76 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	280,292.76 m <sup>2</sup>				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		65,155.93 m <sup>2</sup> (65,155.93 m <sup>2</sup> )	— m <sup>2</sup> ( — m <sup>2</sup> )	— m <sup>2</sup> ( — m <sup>2</sup> )	65,155.93 m <sup>2</sup> (65,155.93 m <sup>2</sup> )				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	79 室	35 室	22 室	11 室 (補助職員5人)	1 室 (補助職員0人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数					
		保健医療学部 口腔保健学科		16 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
		保健医療学部	1,000 [200] (1,000 [200])	18 [5] (17 [5])	3 [2] (2 [2])	26 (26)	261 (261)	48 (48)	
	計	1,000 [200] (1,000 [200])	18 [5] (17 [5])	3 [2] (2 [2])	26 (26)	261 (261)	48 (48)		
	保健医療学部	1,000 [200] (1,000 [200])	18 [5] (17 [5])	3 [2] (2 [2])	26 (26)	261 (261)	48 (48)		
図 書 館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数				
	5,762.93 m <sup>2</sup>		709		456,000				
体 育 館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体	
	2,599.02 m <sup>2</sup>		テニスコート 17 面	マルチスタジアム 1 室	屋外バスケットボールコート 1 面	柔道場 1 面	弓道場 1 棟		アーチェリー場 1 面
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子 ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む。)を含む。
		教員1人当り研究費等	400千円	400千円	400千円	400千円	-	-	
	共同研究費等	4,000千円	4,000千円	4,000千円	4,000千円	-	-		
	図 書 購 入 費	10,563千円	9,534千円	8,000千円	8,000千円	8,000千円	-	-	
	設 備 購 入 費	286,527千円	3,500千円	3,500千円	3,500千円	3,500千円	-	-	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,368千円	1,138千円	1,138千円	1,138千円	- 千円	- 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等							

既設大学等の状況	大学の名称	明海大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	外国語学部 日本語学科	年	人	年次	人	学士（日本語学）	0.66 0.83	昭和63年	千葉県浦安市明海1丁目2-1	
	英米語学科	4	80	-	320	学士（英米語学）	0.70	昭和63年		
	中国語学科	4	200	-	800	学士（中国語学）	0.35	昭和63年		
	経済学部 経済学科	4	70	-	280	学士（中国語学）	0.79 0.79	昭和63年		
	不動産学部 不動産学科	4	300	-	1,400	学士（経済学）	0.70 0.70	平成4年		
	ホスピタリティ・ツーリズム学部 ホスピタリティ・ツーリズム学科	4	180	-	860	学士（ホスピタリティ・ツーリズム学）	0.98 0.98	平成17年		
	歯学部 歯学科	6	120	-	720	学士（歯学）	1.01 1.01	昭和45年		埼玉県坂戸市けやき台1番1号
既設大学等の状況	大学の名称	明海大学大学院								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	応用言語学研究科 〔博士前期課程〕 応用言語学専攻	年	人	年次	人	修士（応用言語学） 修士（日本語教育学）	0.69 0.69	平成10年	千葉県浦安市明海1丁目2-1	
	〔博士後期課程〕 応用言語学専攻	2	15	-	30	修士（応用言語学） 修士（日本語教育学）	0.26 0.26	平成12年		
	経済学研究科 〔修士課程〕 経済学専攻	3	5	-	15	修士（経済学）	0.60 0.60	平成10年		
	不動産学研究科 〔博士前期課程〕 不動産学専攻	2	15	-	30	修士（不動産学）	0.40 0.40	平成10年		
	〔博士後期課程〕 不動産学専攻	2	15	-	30	修士（不動産学）	0.11 0.11	平成12年		
	歯学研究科 〔博士課程〕 歯学専攻	3	3	-	9	博士（歯学）	0.77 0.77	昭和52年		埼玉県坂戸市けやき台1番1号
	名称：明海大学歯学部付属明海大学病院 所在地：埼玉県坂戸市けやき台1-1 設置年月：昭和45年6月 規模等：10,456.0㎡									
	名称：明海大学PDI埼玉歯科診療所 所在地：埼玉県入間市豊岡5-1-3 設置年月：昭和55年7月 規模等：924.3㎡									
名称：明海大学PDI東京歯科診療所 所在地：東京都渋谷区代々木1-38-2 設置年月：平成16年7月 規模等：269.2㎡										
名称：明海大学PDI浦安歯科診療所 所在地：千葉県浦安市明海1-1-20 設置年月：平成17年2月 規模等：960.0㎡										

教育課程等の概要																
(保健医療学部口腔保健学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎教育	学修の基礎Ⅰ	1前	2			○			1							
	学修の基礎Ⅱ	1後	2			○								兼1		
	学修の基礎Ⅲ-a	1前	2			○								兼1		
	学修の基礎Ⅲ-b(情報リテラシー)	1後	2			○								兼1		
	小計(4科目)	-	8	0	0	-			1	0	0	0	0	兼3	-	
共通科目	人間形成	人間存在の課題	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		社会生活と倫理	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		文学の世界	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		人類と文化	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		美とは何か	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		コミュニケーション論	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		心理学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		からだと健康	1・2・3・4前・後		2		○			1						
		日本人の生活意識	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		性格とは何か	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		生命と遺伝子	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		スポーツ科学講義A	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		スポーツ科学講義B	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		スポーツ科学演習A	1・2・3・4前		2				○						兼2	
		スポーツ科学演習B	1・2・3・4後		2				○						兼2	
		ボランティア講義	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		人間形成ゼミナール	2・3・4前・後		2				○		1					兼3
	小計(17科目)	-	0	34	0	-			1	0	0	0	0	兼13	-	
共通科目	国際理解	日本の歴史	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		国際関係論	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		国際貢献論	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		民族と宗教	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		異文化コミュニケーション論	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		日本語と日本文化A	1・2・3・4前		2		○								兼1	留学生選択
		日本語と日本文化B	1・2・3・4後		2		○								兼1	留学生選択
		フランス語とフランス文化A	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		フランス語とフランス文化B	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		ドイツ語とドイツ文化A	1・2・3・4前		2		○								兼2	
		ドイツ語とドイツ文化B	1・2・3・4後		2		○								兼2	
		スペイン語とスペイン文化A	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		スペイン語とスペイン文化B	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		韓国語と韓国文化A	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		韓国語と韓国文化B	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		中国語と中国文化A	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		中国語と中国文化B	1・2・3・4後		2		○								兼1	
英語文化研究A	1・2・3・4前		2		○								兼2			
英語文化研究B	1・2・3・4後		2		○								兼2			
国際理解ゼミナール	2・3・4前・後		2				○							兼1		
	小計(20科目)	-	0	40	0	-			0	0	0	0	0	兼14	-	

教育課程等の概要																
（保健医療学部口腔保健学科）																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	人間力形成教育 社会生活	法学		2		○								兼1		
		日本国憲法	1・2・3・4前・後	2		○								兼1		
		経済のしくみ	1・2・3・4前・後	2		○								兼1		
		政治のしくみ	1・2・3・4前・後	2		○								兼1		
		自然環境論	1・2・3・4前・後	2		○								兼1		
		生活と安全	1・2・3・4後	2		○								兼1		
		行動科学	1・2・3・4前・後	2		○								兼1		
		データのまとめ方	1・2・3・4前・後	2		○								兼1		
		数理の世界	1・2・3・4前・後	2		○								兼1		
		身近な化学	1・2・3・4後	2		○								兼1		
	社会生活ゼミナール	2・3・4前・後	2				○						兼2			
	小計(11科目)		-	0	22	0	-			0	0	0	0	0	兼9	-
	キャリア形成教育	キャリアプランニングⅠ	1後		2		○								兼1	
		キャリアプランニングⅡ	2前		2		○								兼1	
		キャリアプランニングⅢ	2後		2		○								兼1	
		キャリアデザイン	3通		4		○								兼1	
	小計(4科目)		-	0	10	0	-			0	0	0	0	0	兼1	-
	特別科目	アカデミック日本語Ⅰ	1前		2		○								兼1	留学生選択
		アカデミック日本語Ⅱ	1前		2		○								兼1	留学生選択
		アカデミック日本語Ⅲ	1前		2		○								兼1	留学生選択
アカデミック日本語Ⅳ		1前		2		○								兼1	留学生選択	
小計(4科目)		-	0	8	0	-			0	0	0	0	0	兼1	-	
合計(60科目)		-	8	114	0	-			2	0	0	0	0	兼34	-	

教育課程等の概要															
(保健医療学部口腔保健学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎分野	科学的思考の基盤・人間と生活	生命哲学	1前・後	2			○								兼1
		医療心理学	1前・後	2			○								兼1
		生物学	1前・後	2			○			1					
		化学	1前・後	2			○			1					
		歯学基礎英語	1後	1					○	1					
		歯学臨床英語	2前	1					○	1					
		英会話 I	2後	1					○	1					
		英会話 II	3前	1					○	1					
中計(8科目)		-	12	0	0	-			2	0	0	0	0	兼1	-
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学	1前	2			○								兼1
		生理学	1前	2			○								兼1
		小計(2科目)	-	4	0	0	-			0	0	0	0	0	兼2
	歯・口腔の構造と機能	口腔解剖学	1前	2			○				1				
		口腔生理・機能学	1前	2			○								兼1
		口腔組織・発生学	1後	2			○								兼1
		小計(3科目)	-	6	0	0	-			0	1	0	0	0	兼2
	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	口腔病理・微生物学	2前	2			○			1					
		生化学・栄養生化学	2後	2			○			1					
		薬理学・歯科薬理学	2後	2			○								兼1
		小計(3科目)	-	6	0	0	-			2	0	0	0	0	兼1
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	口腔衛生学	2前	2			○					1			
公衆衛生学		1後	2			○			1						
介護福祉		3後	2			○			1						
臨床医科学		3後	2			○			1						
小計(4科目)		-	8	0	0	-			2	0	1	0	0	0	-
中計(12科目)		-	24	0	0	-			3	1	1	0	0	兼3	-
専門分野	歯科衛生士概論	口腔保健学概論	1前	2			○			1		1			共同
		小計(1科目)	-	2	0	0	-			1	0	1	0	0	-
	臨床歯科医学	臨床検査・放射線学	3前	2			○			1					
		歯科保存学	2後	2			○				1				
		歯科補綴学	2後	2			○			1					
		口腔外科・麻酔学	3前	2			○			1					
		小児・矯正歯科学	2後	2			○			2					オムニバス・共同(一部)
		高齢者・スペシャルニーズ歯科学	3前	2			○			2					オムニバス・共同(一部)
		摂食嚥下リハビリテーション学	3前	2			○			1					
	小計(7科目)	-	14	0	0	-			6	1	0	0	0	0	-
	歯科予防処置論	歯科予防処置論 I	2前	2			○				1	1			共同
		歯科予防処置論 II	2後	2			○				1	1			共同
		歯科予防処置実習 I	2前	1					○		1	1			共同
		歯科予防処置実習 II	2後	1					○		1	1			共同
		臨床歯科衛生活動論	3前	2			○			1					共同
		口腔保健管理学実習	3後	1					○		1	1			共同
	小計(6科目)	-	9	0	0	-			1	1	1	0	0	0	-
	歯科保健指導論	歯科保健指導論 I	2前	2			○			1		1			共同
		歯科保健指導論 II	2後	2			○			1		1			共同
		歯科保健指導実習 I	2前	1					○			2			共同
歯科保健指導実習 II		2後	1					○			2			共同	
摂食嚥下リハビリテーション実習		3後	1					○	1		1			共同	
小計(5科目)		-	7	0	0	-			2	0	2	0	0	0	-

教育課程等の概要															
(保健医療学部口腔保健学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門分野	歯科診療補助論	歯科診療補助論Ⅰ	1後	2			○			1		1			共同 共同 共同 共同 共同 兼2 オムニパス 兼3 オムニパス
		歯科診療補助論Ⅱ	2前	2			○			1		1			
		歯科診療補助実習Ⅰ	1後	1					○	1		1			
		歯科診療補助実習Ⅱ	2前	1					○	1		1			
		歯科診療補助実習Ⅲ	2後	1					○			2			
		チーム歯科医学実習Ⅰ	3前	1					○	1					
		チーム歯科医学実習Ⅱ	3後	1					○	1					
	小計(7科目)	-	9	0	0	-	-	-	4	0	2	0	0	兼3 -	
	臨地実習(臨床実習を含む。)	口腔保健学臨床臨地実習Ⅰ	3前	8					○	7	2	4			共同 共同 共同 兼2 オムニパス
		口腔保健学臨床臨地実習Ⅱ	3後	8					○	7	2	4			
口腔保健学臨床臨地実習Ⅲ		4前	4					○	7	2	4				
小計(3科目)		-	20	0	0	-	-	-	7	2	4	0	0		
中計(29科目)		-	61	0	0	-	-	-	9	2	4	0	0	0	-
総合演習	歯科総合演習	4通	4	0	0	-	○	-	8	2	1	0	0	兼2 オムニパス	
卒業研究	卒業研究	4通	4	0	0	-	○	-	10	2	4	0	0	0	-
合計(51科目)			-	105	0	0	-	-	10	2	4	0	0	兼6 -	
学位又は称号		学士(口腔保健学)		学位又は学科の分野				保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
(共通科目) 基礎教育から8単位必修、人間力形成教育の人間形成から4単位以上、国際理解から4単位以上、社会生活から4単位以上、計、20単位以上修得 (専門科目) 基礎分野から8科目12単位必修、専門基礎分野から12科目24単位必修、専門分野から29科目61単位必修、総合演習から1科目4単位必修、卒業研究から1科目4単位必修、計105単位必修 共通科目と専門科目を合わせて125単位以上修得  履修単位数の上限: 1年前期22単位、1年後期22単位、2年前期24単位、2年後期24単位 3年前期26単位、3年後期26単位、4年前期28単位、4年後期28単位 ※通年科目については、単位数の1/2を前期及び後期にそれぞれ算入する								1学年の学期区分			2期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				

授 業 科 目 の 概 要				
(保健医療学部口腔保健学科等)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎教育	学修の基礎Ⅰ	明海大学生として満足度の高い4年間を過ごすために、「自分の大学について興味関心を持ち、自分のやりたいことを発見し、それを表現することでモチベーションを高める」ことを目的とした授業です。1クラス30人前後の編成で、6人単位のグループでスモールグループ討議を中心に展開します。活動テーマは「明海大学を良く知る」「ポジティブな自分づくり」「自分の考えを伝える」「特色ある授業をリサーチする学科探究プロジェクト」等で、グループメンバー同士で調べ・話し合い・決定し・アイディアを作成し・発表する、学生主体のグループワーク形式です。コンテスト等もまじえて楽しく活発な授業を行います。		
	学修の基礎Ⅱ	日本語の運用能力の向上をめざし、論理的な思考力、表現力の育成をはかります。また、漢字・語句練習による語彙力の育成、談話完成練習によるコミュニケーションスキルの育成をはかります。グローバル社会で生きるために、自己と他者の差異を越え、協働できるようなコミュニケーション・スキルを身につける。基本的な漢字・語句について正しく理解、表現できるようになる。論理的な思考により、伝えたい内容を分かりやすく表現できるようになる。		
	学修の基礎Ⅲ-a	論理的推論の力を身につけるため、それらの土台となる以下の項目について学びます： ・正確で客観的な表現に必要な「数字」の意味と使い方 ・問題解決に必要な基本的かつ具体的なアプローチ方法 ・論理的な説明の仕方(答案の書き方) 身の回りの様々な問題を解決するために、物事を数値化して捉える「数字リテラシー」と、得られた情報から適切な結論を論理的に導出することを可能とする「推論力(ロジカル・シンキング)」を身につける。		
	学修の基礎Ⅲ-b (情報リテラシー)	授業では、パーソナルコンピュータやインターネットの利活用を通じて世の中の情報を使いこなしていくためのスキルを習得するとともに、現代社会における情報化の現状と情報倫理について理解することを目指す。具体的にはパーソナルコンピュータの基礎的な操作をはじめ、Wordでの文字入力と目的に応じた文書の作成、インターネットの利活用(Webメールを含む)、PowerPointでのプレゼンテーション用スライドの作成などを扱う。		
人間力形成教育	人間形成	人間存在の課題	現代は様々な物質的発達の影で人間のあり方が問われている時代であると言える。なぜなら、「生きるために物質的に豊かになる」という本来の手段と目的が逆転し、「物質的に豊かになるために生きる」という状況に、人間性が押しつぶされるような状況が生じているからである。本講義では、西洋哲学・思想を中心に学習しながら、自己と世界のあり方を反省し、生きるということの意味を自ら問いただすことができるようにしていく。	
		社会生活と倫理	今日、価値観が多様化し、「善」について確固とした意見を持つことが困難になってきている。しかし、そんな状況にあっても我々は、生きている限り「どのように生きるべきか」考え、自ら「よい生」を選びとらなければならない。成熟した人格を持つ個人として社会生活をよりよく生きるため、本講義では西洋倫理学で用いられる概念を講じ、受講者の求める「よい生」へのヒントを提示したいと考える。西洋倫理学の基本的な知識の習得と、自分の置かれた状況に、習得した知識を活かして自分で分析し、立ち向かうことのできるような学生を育成することを目的とする。	
		文学の世界	文学は国内・外を通じ多様な形で存在し、研究されているが、本授業では身近にある広告等の表現技巧とその源泉を古典文学に求め、そこから文学的表現の世界に分け入り、本文批評や文学研究の諸方法を俯瞰した上で、物語の話型を学び、それがドラマにまで通底する点を見たい。童話の改変・分析の問題に触れ、次に引用の美学を確認、さらにリアリティ獲得の方法を、歴史小説や自然主義、私小説と非私小説に見、作品生成の背景や成立の場を考える。	
		人類と文化	文化人類学は、「文化」という概念を手がかりに、さまざまな人間の行動の差異に注目し、それらを多様性と普遍性という観点からとらえ、「人間とは何か」について考える学問である。本授業では、文化人類学の知識、視点、方法を学び、ものごとや世界についての新しい認識の仕方を身につける。 私たちに身近な問題関心である、人間の生の営みに関連するさまざまなテーマをとりあげながら、文化人類学の考え方を学ぶ。さらに、それらの知識をもとに、個別の事例に照らし合わせて比較検討する視座を養う。	



授 業 科 目 の 概 要				
（保健医療学部口腔保健学科等）				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
人間力 形成 教育	人間 形成	美とは何か	芸術家たちは真に迫ったリアルな表現を目指して顔や人体を研究してきたが、同時に、芸術的、美的効果をあげるために、解剖学的正確さをあえて無視して、顔や人体をさまざまに誇張、変形、省略してきた。本講義ではまず第9回まで、顔や人体が人種、年齢、性別によってどのように違うか、それらの違いが古今東西の絵画、彫刻の中でどのように表現され、どのような印象、効果を見る者に与えているかを考察する。	
		コミュニケーション論	人間各自が主人公となって行なわれる多様なコミュニケーション（コミと略）を総称して、「人間コミ」という。授業の前半は、自己と他者の間におこる対人コミのしくみを図化した循環的図式モデルを用いて、コミの構成要素を取りあげながら、コミ能力について考える（実践編）。後半は、見えない心をもつ人間同士の間、コミ目標である「相互理解」がどのように生じるのか、なぜ言葉や身振りは相手に通じるのかについて理論的に考える（理論編）。	
		心理学	心理学は、私たちの心や行動の理解を目指す学問です。講義では、基本理念や歴史、研究方法、細分化された心理学の各領域における代表的な研究や最新の知見について概説していきます。心理学が、自分自身や自分を取り囲む社会についての学問であることを知り、自分にはどのような特徴があり、見たり聞いたり感じたりしながら行動に移しているのかについて考えを深めるとともに、人との関わりをより良くするための方法を学びます。	
		からだと健康	現代社会に生きる人間にとって健康は大切なものであり、かけがえない財産である。自己実現のためにも、健康の保持・増進は重要である。本講義では学生が健康な生活を送るためにからだの仕組みを理解し、自己の健康を管理でき、健康に関して科学的または医学的な考え方ができるようにすることを目的とする。授業では、まず生物の一員として生物の特徴を学び、次に人体の各臓器の機能、役割および病気の成り立ちについて講義を行う。後半では健康に影響を及ぼす生活習慣（食事、運動、嗜好、睡眠など）や環境問題（一般生活ストレス、地球環境問題など）を取り上げる。	
		日本人の生活意識	我々人間は、ほぼ意図することなく一定の世界観・価値観に従って日々の生活を送っている。この世界観・価値観は日常生活において顧みられることなく、広義の「世間知」として習得されてきたものである。本講義はカントの人間学的な観点から、さまざまな現代日本の生活にまつわる「世間知」についてより深く反省を加え、成熟した人間になるために必要なことは何かを考える。	
		性格とは何か	性格（パーソナリティ）は、「人となり」や「その人らしさ」を指します。言動に現れるものから、内面に隠されたものまで、その人の人間性のすべてが、パーソナリティに含まれます。本講義では、自分のパーソナリティについての理解を深め、前向きなライフキャリアにつながるパーソナリティの成長と、自他のパーソナリティの違いを受け止め、互いを活かしかう人間関係構築につながる学びを深めます。	
		生命と遺伝子	地球上には、微細で単純な生物から、人間のように複雑な構造を持つものまで多種多様な生物が生息している。しかし、どの生物においてもその特徴を決定するのは遺伝子である。この講義では、生物の一員である人間について、遺伝子との係わりから学習する。講義前半では、生物とは何かを、その共通点と相違点から学び、生物の基本単位である細胞の構造や働きについて学習する。中盤では、生物の情報を保持する遺伝子の構造や働き、また、生物の体を動かす器官系の機能を、後半は、生物の起源と進化、最後に、生物と地球環境との係わりを学習する。	
		スポーツ科学講義A	<アスリートの科学> 世界で活躍するアスリートの心・技・体に焦点を当てる。実在するアスリートやその実話をもとに「競技スポーツ」の知られざる全貌に迫る。いまや、トップアスリートにとってスポーツ科学の導入は、必要不可欠である。試合の結果のみならず、そこに辿りつくまでのプロセスも実に興味深い。これを知れば、スポーツを「みる」ときの楽しさが倍増するだろう。授業では、動画、スライド、資料を存分に活用し、「アスリートの科学」を学ぶ。	
		スポーツ科学講義B	<健康スポーツの科学> スポーツの魅力は、「する」ことにあるといつてよい。もともとスポーツには、遊び感覚で身体を動かすこと、それ自体に楽しさがある。また、体力年齢の低下を緩やかにしたり、生活習慣病も予防できる。実際にスポーツを実践している人たちは、心身共に健康な生活を送るために、日常生活の限られた時間の中で、真剣に楽しみ一所懸命に遊んでいる。	

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部口腔保健学科等）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間形成	スポーツ科学演習A	10～20歳代のプロゴルファーの活躍によって、ゴルフのイメージは大きく変わりつつある。ウェアも華やかになり、ゴルフ場でプレーする女性も増えている。「紳士の社交場」としての景色も変わり、いまや性別・年齢を問わず、多くの人々が、健康スポーツとしてゴルフを楽しむようになった。ゴルフは基礎からきちんと習うと、意外にも短時間で上達する。まずはクラブを握り、振ってみることから、ゴルフの面白さ体験してみる。	
	スポーツ科学演習B	健康管理の手段および生涯スポーツとして人気の高いウォーキング・ジョギング・ランニングを取り上げる。正しいウォーキング、ジョギング、ランニングの知識と技能を習得する。ウォーキングでは「いかに速く歩かか」、ジョギングでは「いかにゆっくり走るか」ランニングでは「いかに楽しんで走るか」によって、意外なほど簡単に実践できることを体得し、今後の健康・体力づくりに生かしていく。	
	ボランティア講義	ボランティアの歴史や現状について学びます。国内のボランティア活動についても触れますが、主に海外でのボランティア活動を見てゆきます。特に青年海外協力隊の歴史や活動を具体的にみてゆきます。米国、英国、韓国などのボランティアについても概観します。講義と映像によって授業を進めてゆきます。海外でのボランティア活動が遭遇する問題について考えてみます。ボランティアと政府、企業、大学の関係について考えよう。	
	人間形成ゼミナール	（ヘルスプロモーション～健康長寿の秘訣を探る～） 人が心身とも健康で、その一生を全うすることは人類の共通の願いである。現在、我国は世界に類を見ない超高齢社会を迎えようとしている。健康に関する話題や商品の情報が氾濫しているなかで、私たちは正しい判断をしなければならない。健康で長生きするためには、単に病気になるということではなく、身体的、心理的・精神のおよび社会的側面も考慮しなければならない。そこで、本ゼミでは幅広い視点から健康を阻む要因、健康を増進する要因などについて各人が興味あるテーマについて、現状の説明、問題点、解決案などについて事前に調べる。授業では各人の発表をもとに全員でディスカッションし、人生を健康で豊かに生きるためのヒントを探ることを目的とする。	
国際理解	日本の歴史	「歴史」というと堅苦しいイメージがあるかも知れませんが、国際社会に生きる私たちがだからこそ、先人が歩んできた道のりや日本社会の成り立ちを知っておく必要があります。この講義では、現代社会のしくみや現在の日本人の精神構造に大きな影響を与えた、近世・近代といわれる時代を中心に講義を進めます。特に江戸時代に徳川将軍の居城であり、明治以降は皇居となった江戸城（東京城・宮城などとも呼ばれた）をテーマの中心に据えながら、近世・近代の政治・経済・社会・文化などを多角的に取り上げていきます。進み具合に応じて映像なども活用していきます。	
	国際関係論	この授業の目的は多極化する世界に移行し、不確実性を増しつつある今日において、日本をめぐる国際関係を考え、日本の重要性を認識し、明日の国際関係を洞察する力を養うことにある。 今まで日本にとって、一番重要な国際関係一日米関係、日英関係、日露関係、日韓関係、日中関係、日本と東南アジアの関係などを顧みることによって、先人の英知を学び、危機の状況下における物事の見方、考え方を身に付けることができる。	
	国際貢献論	自然災害後の被災者救援のための「国際緊急援助」や「留学」、「移住」、内戦終結後の「復興支援」などに関し、テーマごとに国際貢献（国際協力）の視点から学んでゆきます。世界各国の状況をニュースやデータに基づき理解し、あわせて現地を映した映像を通して世界の人々の暮らしを身近な形で理解します。 日本が世界の平和や発展のため、何をしてきたのか、しているのかを学びます。日本国内でも国際貢献（国際協力）ができることを学びます。	
	民族と宗教	世界には様々な民族があり、様々な生き方、考え方、生活スタイルがある。それらの基盤になっているのは多くの場合宗教である。異なった民族を理解する上で、その背後にある宗教を理解することは重要である。この授業では、世界に大きな影響を与えてきたいくつかの主要な宗教の教えと歴史の基本を理解し、それがどのような思想や行動のパターンを生み出していくのかを考察する。また、それらの学びを通して、受講者が自らの宗教性についても省みる機会にしたい。	

授 業 科 目 の 概 要				
(保健医療学部口腔保健学科等)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
人間力形成教育	国際理解	異文化コミュニケーション論	異文化コミとは、異なる文化を身につけた人間や人間集団の間に起こるコミであり、自分とは異なる文化を身につけた人たちとの交流を通して、新たな生き方を創造する営みでもある。現代の日本と世界に必要な学問である。本講座を異文化コミ学への入門と位置づけ、前半は異文化コミの研究・教育・学習の必要性などを、人類の歴史・国際文化論・グローバル化・文化の多様性という観点から考察する。後半は、異文化コミの問題事例を取りあげ、コミ目標である相互理解の形成を妨害する諸要因とその克服法などについて考察する。	
		日本語と日本文化A	宮崎駿(ジブリ)のアニメーションは、日本の文学と日本文化の背景を学べる宝庫です。アニメーションに引用されている「ダイダラボッチ」「笠地蔵」「猿蟹合戦」などの神話伝説や昔話を、リスニングとリーディングの力を育てることも意識しながら、学んでいきます。また、昔話や神話を読み解くことが、明治時代の日本になぜ民俗学として必要とされたのか、その後の高度経済成長期には、民俗学はどのように消費されていくのか。古来の画像をもとに水木しげるが作り出した妖怪のビジュアルや、神々が零落したものが妖怪だとする柳田國男の理解を通して、日本文化のありようも学びます。	留学生選択科目
		日本語と日本文化B	前期の「日本語と日本文化A」で、高度経済成長期の日本文化を学んだことを生かし、後期は、映画を通して、高度経済成長期の文化を学ぶ。推理小説『点と線』、直木賞受賞作『江分利満氏の優雅な生活』、SF小説『日本沈没』を通して、(日本人)がどのような国民として描かれてきたかにも注目していく。	留学生選択科目
		フランス語とフランス文化A	難しいと思われるフランス語を最も簡単なテキストを使用して学習する。初めて学ぶ人が抱く、発音、文法など難しいのではという不安・心配を取り除きわかり易く説明する。ビデオ・DVDの映像もかりて、簡単な会話学習を通してフランスへの憧れと期待に応える。テキスト中のパリを旅行する「私」になって簡単な旅行会話をがマスターできる。またフランス語とはどんな言葉か、英語とは異なる新しい言葉を知ることでフランス文化・社会への知識が身につく。	
		フランス語とフランス文化B	映画や歌、絵画、文学、写真などを観賞しながら、パリについて学んでいく。フランス文化への理解を深めたい。新聞・雑誌・インターネット・本など、あらゆる情報を調べてみる。自らの国と比較して、自分自身の状況について考えてみる。総合的にフランス文化への理解を深める。	
		ドイツ語とドイツ文化A	ドイツ語については、発音をしっかり身につけ、やさしい日常会話に必要な文法を習得してもらい、初歩的な日常会話を練習します。文化については、たいへん限られた時間ですので、啓蒙主義の時代あたりまでのドイツの歴史について非常に大まかなイメージをもってもらうとともに、名前だけは聞いたことがある、という著者・著書のいくつかを紹介しつづつ紹介します。発音と基本的な初歩的文法をしっかり身につけ、それを土台に、初歩的な日常会話に馴染む。ドイツ文化に関しては、名前だけは知っている古典が、実際に読んでみれば、内容豊かでけっこう面白いことを、体験して実感する。	
		ドイツ語とドイツ文化B	ドイツ語の学習のためには、最低限度の文法は覚えなければならない。後学期では、前学期で学んだ文法を復習しながら、新しい文法を学んでいくことにする。ドイツ語の学習の合間に、現代ドイツ事情(例えば、旧東西ドイツの格差の問題や環境政策)に関する話などを盛り込んでいくことにする。到達目標としては、簡単な日常会話の他に、自己紹介ができるようになる。	
		スペイン語とスペイン文化A	スペイン語は、使用人口が世界で3番目に多く、20を超える国々で話されています。本講座の中心目標は、スペイン語の基本を習得することです。それを通じて、スペイン語文化圏の理解にも努めます。スペイン語圏を紹介するビデオも数回見ます。スペイン語の基本を身に付けること。スペイン語で最低限の会話のやり取りができるようになること。	

授 業 科 目 の 概 要				
(保健医療学部口腔保健学科等)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
人間力形成教育	国際理解	スペイン語とスペイン文化B	スペイン語は、使用人口が世界で3番目に多く、20を超える国々で話されています。 本講座の中心目標は、スペイン語の基本を習得することです。それを通じて、スペイン語文化圏の理解にも努めます。 スペイン語圏を紹介するビデオも数回見ます。 スペインとスペイン語圏の国の文化や習慣など理解できること。 スペイン語圏、スペイン語圏のビジネス界を理解する。	
		韓国語と韓国文化A	ハングルアルファベットから始めます。まずは、文字や正確な発音を身につけ、読み書きがしっかりできるようにします。初歩的な文法を覚え、日常生活に必要な簡単な作文・会話をができるようにしていきます。また、ハングルのワードの打ち方も習え、ネットでハングル検索ができるようにします。日本語母語話者向けに工夫されたテキストを用い、体系的にわかりやすく、日本語で説明します 《韓国文化》 韓国人とスムーズにコミュニケーションを図るために、韓国人の情緒・習慣・価値観などについても触れていきます。 話題になっている音楽、ドラマなども紹介します。	
		韓国語と韓国文化B	前学期に引き続き、基礎文法をしっかりマスターしていきます。そして、基礎文法をベースにし、中級レベルの学習能力を身につけます。習得した基礎文法を取り入れた作文作り、自分の考えや主張をまとめる練習、聞き取りの練習、簡単なプレゼンテーションなどが行われます。 最終的には<韓国語能力検定試験3級>に対応していける運用能力を養います。 授業時間には、韓国文化を紹介する時間が10～15分くらい設けられており、自由に意見を交わします。	
		中国語と中国文化A	本学のディプロマ・ポリシーである社会性の資質を伸ばし、自律した個人として社会に貢献していくために、コミュニケーション手段としての中国語と、それを理解するための中国文化について前期・後期を通じて講義していきます。言葉は文化と密接に関係があり、共に学んでいくことはとても重要であると同時に効率的でもあります。中国語は、21世紀の世界において、英語と並び最も重要な言語であることは言うまでもありません。中国語の基礎と、中国文化の基本を知ることによって中国をよりよく理解し、新たな日中関係を創造する力を養います。	
		中国語と中国文化B	中国語と中国文化Bでは、中国語と中国文化Aに続いて、中国語の基礎となる文法事項と中国を理解するための歴史・文化・経済・社会の基礎知識を学んでいきます。この科目を通して中国語による基本的なコミュニケーションができるようになり、中国語の新聞なども辞書を用いて読み下せるようになることを目標にしています。中国文化については、中国の政治・経済や、文化的背景などについて、まとまった知識を持つことが目標です。	
		英語文化研究A	英語圏の国、特にアメリカとその社会や文化について考える。授業では、日本人学生とアメリカ人学生が英語で互いに質問し、互いに答えるという形で各章が構成されているテキストを読み進める。大学生活、食習慣、働き方等、日本とアメリカの社会や文化的側面の様々な違いについて理解し、クラスでディスカッションしていく。必要に応じて、テキスト以外の関連資料も扱いながら、英語を読む力はもちろん、発信する力の基礎も養う。	
		英語文化研究B	授業では、日本で働いている様々な国籍や職種の人達に関する取材、インタビューの映像を収録したDVD 付属のビデオ教材をテキストとして用いる。彼等への取材やインタビューのリスニング、そこで使用されている英語の表現を使ったスピーキング、扱われているトピックについてのディスカッション、付随するリーディングを行う。それらのアクティビティーを通じ、英語圏や他国の文化に関しても、日本との比較を通しながら学んでいく。	
		国際理解ゼミナール	世界で起きた事件や国際的な問題を学習します。紛争や内戦がなぜ起きたのか？ そのなかで人々はどのように生きたのか？ を学習します。そうした学習を通じて、最終的に受講者の人間力を拡充することを目指します。 異なる文化や遠い国の人を理解でき、受け入れることを学びます。講義に加え、映画や映像を通して学習します。 後半は、受講者が決めたテーマに関し、発表してもらいます。	

授 業 科 目 の 概 要				
（保健医療学部口腔保健学科等）				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
人間力形成教育	社会生活	法学	社会のルールの一つである法は、私たちの生活の様々な場面で関わっている。法学の知識や、法的なものの考え方は、程度の差はあるが、全ての人にとって有用である。授業では、私たちの生活に身近な法制度について基礎的知識を提供するとともに、それを踏まえた上で、現実の社会の具体的問題を「法的」に検討する。法を学ぶにあたっては、自分と意見を異にする人との「対話」が有益である。対話を通じ、物事の解決に唯一の「正解」は存在しないことを知り、自分自身で考えてみる訓練をすることが重要となる。	
		日本国憲法	日本国憲法に関する身近な事例を素材とし、国民の権利義務や国家統治について学ぶ。 (1) 日本国憲法が日本の国益を守り、国際未来社会における「この国のかたち」を描けていけるのか、各人が合理的な意見を創造する。 (2) 偏りのある意見や報道に惑わされることなく、日本の現実に即した憲法のあるべき姿について、各人が説明できる。 (3) 日々のニュースを憲法の観点からとらえ、自分なりの説明ができる。	
		経済のしくみ	本講義では、経済の仕組みについて理論と現実の両面から説明していきます。経済学の理論はミクロ経済学とマクロ経済学に大きく分けることが出来ます。前半はミクロ経済学の分野で市場の話を中心に説明していきます。後半はマクロ経済学の分野で日本の国全体の経済について説明していきます。経済学は現実の経済問題を解決するために発展してきた学問です。受講者は経済について身近な問題ととらえ積極的に講義に出席、参加することを求めます。	
		政治のしくみ	現代における政治のしくみを理解する際に有用と思われる民主主義、権力、自由という三つの概念について理解を深めます。これらの概念の歴史的背景を論じる一方で、学生のみなさんがこれらの概念の現代における意義を理解しやすいように映像資料等も併用します。授業では基本的に、パワーポイントを用います。学生のみなさんには、パワーポイントを使って映写し担当者が口述した内容を、ノートに適切に記録してもらいます。こうして作成した自筆ノートのみ試験には持ち込み可能です。	
		自然環境論	代社会における最も重要な課題のひとつである環境問題について、その原因や発生のメカニズムは何か、何が問題となっているか、そして解決のためにどのような制度と仕組みを構築すべきかを考える。環境法政策学を中心に中心として、自然保護については環境倫理学・環境哲学の知見をも取り入れながら、制度の現状と課題について学ぶ。環境問題に関する法的な制度や仕組みについて、専門用語とその内容を理解することによって、基本的な知識を習得できる。	
		生活と安全	人間が生活をしていく上で、「安全」は最も重要な要素である。しかし、その範囲はあまりに広いので、本講義では、「地球温暖化とエネルギー問題」「食糧問題」「水問題」「廃棄物問題」に焦点をあてる。そこで、現代における人間社会の「安全」とは何かを考えてみる。人間が「生活」していくうえで、避けることのできない問題である、「地球温暖化とエネルギー問題」、「食糧問題」、「水問題」、「廃棄物問題」のかかえている重要な要素を理解する。	
		行動科学	行動科学という学問は、人間の行動を包括的にとらえようとする学際的な研究分野で、人間の行動を総合的に解明し、予測・制御しようとする実証的経験科学です。ビジネスの領域では、どのようにしたら人はやる気が高まり行動を起こし、パフォーマンス向上につながるのか、また保健医療の領域では、どのようにしたら、人は不健康行動を変容させ健康行動を継続することができるかなどが研究され、日常的に応用活用されている学問です。本講義では、人間の行動にかかわる諸理論を学びます。また、その理論をを基盤とし、「人と共に、こころ豊かに生きる」ためのヒューマン・スキルを習得することを目的としています。	
		データのまとめ方	プロ野球で経済学と統計学の考え方を学ぶ授業です。到達目標は野球と経済のデータの読み方を理解できることです。データの中心化の傾向とは何を意味するのかを理解できる。標準偏差の計算方法を理解できる。正規分布の特性を理解できる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学部口腔保健学科等)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間力形成教育	社会生活	数理の世界	自分の頭で考える力を養成するリベラル・アーツが伝統的に数学（の内容）を含んでいたことからわかる通り、数学を学ぶことが論理的思考力を鍛えたり、様々なものの見方を身につけたりするために役立つことは歴史の折紙つきです。この講義では、（教科書を使って）体系的に数学を勉強するのではなく、知っておくと有意義であると思われる数学トピックをいくつか選んで紹介します。そこでは、数学の役に立つ側面（金利計算や暗号など）の話だけでなく、数学で見出された偉大な作品（対称性と方程式など）を鑑賞するような話題も取り上げます。
		身近な化学	本講義は、身近にある化学物質を通して、化学の成り立ち、化学の基礎知識、化学物質の応用例を学ぶとともに、「科学」の発展がいかなるものであったかを、「化学」を通して理解することを目的とする。 ①「化学」が身近な生活にとって必要不可欠なものであることを、実例を挙げて説明することができる。 ②「化学」の発展が、人間生活と密接につながってきたことを、実例により説明することができる。
		社会生活ゼミナール	サッカーを通じて放映権料の分配などの経済的問題、各チームを運営していくうえでの経営の問題、サッカーのデータ分析を理解し、サッカーと経済・経営・哲学・統計学との関係を理解する。なお理解力向上のため、国語の読解問題と数学の問題を毎回解いてもらいます。到達目標はサッカー界の経済・経営の問題を通じて経済学・経営学・統計学の基礎知識を身につけることです。 サッカー選手の移籍の自由が認められた理由を理解できる。サッカーにドラフト制度がない経済学的理由を理解できる。サッカーの放映権が高騰した経済学的理由を理解することができる。
キャリア形成教育	キャリアプランニングⅠ	この授業の目的は、就職活動を乗り切り社会で活躍する人材となるために必要な力とスキルを伸ばすことである。特に、キャリアプランニングⅠでは、建設的に議論する力の伸長と就業観の醸成に焦点をあてる。この授業の特徴は、①自分を知る②社会を知る③自分と社会の接点を考えるという過程を、アクティビティによる体験と気付きで学ぶことである。また、日頃から意識できるよう「社会」を基準とした授業ルールを採用している。加えて、基礎学力向上と就職活動における筆記試験に備えるために、MEIKAI SPI を期日までに決められた範囲で正解率を高めるように実施する。	
	キャリアプランニングⅡ	この授業の目的は、就職活動を乗り切り社会で活躍する人材となるために必要な力とスキルを伸ばすことである。特に、キャリアプランニングⅡでは、論理的問題解決とプレゼンテーションに焦点をあて、チーム活動で修練し日常生活で活用できる状態を目指す。この授業の特徴は、①自分を知る②社会を知る③自分と社会の接点を考えるという過程を、アクティビティによる体験と気付きで学ぶことである。「社会」を基準とした授業ルールを採用している。また、基礎学力向上と就職活動における筆記試験に備えるために、MEIKAI SPI を期日までに決められた範囲で正解率を高めるように実施する。	
	キャリアプランニングⅢ	この授業の目的は、就職活動を乗り切り社会で活躍する人材となるために必要な力とスキルを伸ばすことである。特に、キャリアプランニングⅢでは、固定チームで課題に取り組み、企業の広報担当として、広報の企画を考えプレゼンテーションする。チームで協働し、企業研究や店舗見学、企画立案、プレゼンテーション準備を進め、半年後に本格的に始まる就職活動で活用できる学修を目指す。この授業は、「社会」を基準とした授業ルールを採用している。また、基礎学力向上と就職活動における筆記試験に備えるために、MEIKAI SPI を期日までに決められた範囲で正解率を高めるように実施する。	
	キャリアデザイン	MG0の掲げる「一人ひとりが自分らしいキャリアをつかむ」につながる、納得のいく進路決定のために就職活動の準備をする。事前準備（企業・仕事研究、自己PR・志望動機作成）と実践トレーニングおよび振り返りにより、改善(PDCAサイクル)を重ね就活力を伸ばす。この授業の目的は、就職活動を乗り切り社会で活躍する人材となるために必要な力とスキルを伸ばすことである。キャリアデザインでは、就職活動準備を就職スキルの向上に焦点をあてる。また、日頃から意識できるよう「社会」を基準とした授業ルールを採用している。	

授 業 科 目 の 概 要					
(保健医療学部口腔保健学科等)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
特別科目	アカデミック日本語Ⅰ	大学での授業や課題を行うために必要な日本語能力を育てる。アカデミック日本語Ⅰの内容は文法である。大学の授業で使う文型の意味・機能・文法などの規則を、正しく理解して、正しく使うことができる。正しい文法で、読んだり、書いたりできる。意味を正しく理解したり、文法的な間違いがなく書いたり話したりすることができる。文の構造・格助詞・助詞相当句・接続形式・活用など。	留学生選択科目		
	アカデミック日本語Ⅱ	大学での授業や課題を行うために必要な日本語能力を育てる。アカデミック日本語Ⅱの内容は読解である。大学の授業で使う教科書や専門書を読んで、正しく内容を理解できる。授業の課題を行うために必要な資料等を読んで正しく内容を理解できる。文章の構造を理解して、要旨を把握できる。文章の論理的な構造（主張と根拠、事実と考察など）を正しく理解できる。事実と意見を分けて読むことができる。色々な読解ストラテジーを利用することができる。	留学生選択科目		
	アカデミック日本語Ⅲ	大学での授業や課題を行うために必要な日本語能力を育てる。アカデミック日本語Ⅲの内容は、聴解である。大学生活で必要な連絡事項、講義、ゼミ等での話し合い等の内容を正確に聞き取り、内容を正しく理解することができる。専門的な内容の長い話を聞き、内容を正しく理解できる。一般的な内容の説明を聞き、内容を正しく理解できる。複数の人が参加して話している内容を聞き、内容を正しく理解できる。	留学生選択科目		
	アカデミック日本語Ⅳ	大学での授業や課題を行うために必要な日本語能力を育てる。アカデミック日本語Ⅳは、レポートを書くための、読む・聞く・話す・書くの4つの力の総合的な養成をする。大学の学修に必要なレポートを、正しい表現で書くことができる。適切な語・表現を使って、文法的に正しい文で書くことができる。文章の種類によって適切な構造をもった文章を書くことができる。	留学生選択科目		
基礎分野	科学的思考の基盤・人間と生活	人間科学	生命哲学	現代医療の飛躍的革新は、社会に多くの恩恵をもたらす一方で、深刻な波紋を投げかけた。具体的には、生殖補助医療による妊娠・出産をめぐる問題、人生の最終段階における医療や尊厳死に関する問題、臓器移植をめぐる問題等である。本科目では、こうした難解な課題の理解に必要な生命哲学・生命倫理の基本知識を身につける。授業では、人間の生と死をめぐる医療問題に関する具体的な事例の検討を通して、医療職としての基本的な見識を涵養する。	
		医療心理学	医療心理学は、特に医療の領域において、全人的に患者を理解するために必要な臨床心理学や行動科学や行動医学の領域を含んだ包括的な学問である。具体的には、患者の心理や、患者を支える家族の心理および医療従事者の心理を扱う。本科目では、人間の健康と病気、ストレス概念と心身反応について理解を深める。また、医療の担い手の一員として、相手を理解し効果的に対応するための実践的な支援技法（カウンセリング技法・コーチング技法、臨床的な各種心理療法）を学ぶ。		
	自然科学	生物学	ヒトも生物の一員である。従って、ヒトを理解するためには生物を理解する必要がある。生物学では、生命活動の基本的な仕組みと環境との相互作用について学び、命の営みに対する理解を深めることを目的とする。講義では、生物とは何か、生物の進化の過程、生物の特徴、生命体の最小単位である細胞生物学について講義する。次にからだの仕組みと働き、恒常性を維持するための生態調節機構、種の保存戦略について学ぶ。最後に生物を取り巻く生態系、生物多様性、地球環境問題を取り上げ、生物と自然との関わりについて学ぶ。		
		化学	生化学や歯科治療で用いられている歯科材料を理解するためには、化学の基礎知識や化学物質の性質を理解することが必要である。講義では物質の基本単位である原子の構造、イオンの形成、原子の結合、化学反応式とモルの概念、物質の3つの状態、水・溶液・コロイド、溶液の濃度、酸と塩基などの無機化学と飽和炭化水素・不飽和炭化水素、アルコール・エーテル、アルデヒド、ケトン、カルボン酸などの含酸素有機化合物、アミン、アミドなどの含窒素有機化合物などの有機化合物について講義を行う。さらに、生体高分子や歯科材料で使用される高分子化合物の構造と性質について学ぶ。		

授 業 科 目 の 概 要				
（保健医療学部口腔保健学科等）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎分野	科学的思考の基盤・人間と生活	英語コミュニケーション	歯学基礎英語	基本的な歯科学及び歯科医療関連の専門用語を理解し、使用可能にする。 歯の名称から始まり、部位の名称、口腔解剖用語などを学び歯科関連の全身疾患並びに人体に関する専門用語を学ぶ。 ①歯の名称 (Name of tooth) ②歯式 (Tooth designing system) ③部位の名称 (Name of the part of tooth) ④歯および口腔疾患 (Dental and oral diseases) ⑤歯の治療 (Treatment of tooth) ⑥口腔解剖用語 (Terminology of oral anatomy) ⑦全身疾患 (Systemic diseases) ⑧人体各部位 (Parts of the whole body) ⑨歯科衛生士の仕事関連用語 (Terminology relating to dental hygienist work)
			歯学臨床英語	歯科基礎英語で修得した用語を基盤として歯科臨床英語では、実際の歯科治療での各場面を想定し、臨床的かつ実践的な歯科英語を習得していく。各歯科治療分野の初診から治療、メンテナンスへと学習していく。 歯科治療の初診 (First examination of dental treatment)、予防処置 (Dental prevention and oral health)、保存処置 (Restorative dentistry)、歯周処置 (Periodontal treatment)、補綴処置 (Dental prosthesis)、口腔外科処置 (Oral surgical treatment)、矯正処置 (Orthodontic treatment)など。
			英会話 I	(ベーシック) 幅広い知識と豊かな教養、歯科衛生士として必要な倫理観や人間性、国際性を身につけるため、コミュニケーション能力、英語能力の向上を図る。そこで英会話 I では、基本的な会話が理解でき相互間の意思疎通が行えるベーシックな場面での能力を育む。初対面の人への挨拶、久しぶりに会った人への挨拶、紹介への挨拶①天気や季節の話題、趣味や休日の過ごし方について、相手の話題を理解したとき 相手の話題が理解できなかったとき うれしいとき 励ますとき ほめるとき うらやましがるとき 賛成するとき 反対するとき 許すとき 納得するとき 感謝するとき ほめるとき 依頼するとき 電話で応対するとき 買い物するとき 飲食店で食事するとき 交通事情などを話すときなどの表現を練習かつ身に付けていく。
			英会話 II	(スタンダード) 教育をグローバル化するには、国際言語である英語教育の充実が不可欠である。また自国の文化や芸術を英語を使って他国に紹介することも重要である。英会話 II では、英会話 I で身に着けた基礎英会話をベースに、各場面での短文を紹介しその感想を英語で考えていく作業を行う。これにより基本的な討論を行う学修を進める。 次の項目について英語で例文を読み、各自、英語で表現する力を身に着ける。 1. ライフスタイル 2. 交通事情 3. 睡眠 4. 友情 5. 趣味 6. 仕事 7. 健康 8. 習慣 9. お金 10. 車社会 11. 発明 12. テレビと映画 13. 新聞 14. スポーツ 15. 教育 16. 家族 17. 喫煙 18. 世代 19. 欲望 20. 愛 21. 株 22. 偏見 23. 良心 24. 結婚、離婚 25. 運命 26. 幸福 27. ミステリー 28. パラドックス 29. ストレス 30. コンピューター
専門基礎分野	人体の構造と機能		解剖学	解剖学では、歯科衛生士にとって必要な、人体の正常構造の基本的知識を修得する。全身の骨格系、筋系、神経系、脈管系、消化器系、呼吸器系、内分泌系、感覚器系、泌尿器・生殖器系の構造を学び、口腔・顎顔面領域の器官系との関連を理解する。人体の構造を立体的にイメージできるようにするために、テキストと併せて、スライドやVTRの使用、本学歯学部における解剖学実習見学を行う。講義において随時到達目標を提示し、その場で理解と知識の定着を目指す。
			生理学	医学の基礎としての生理学は、正常な人体の全身機能およびその調節の「しくみ」を理解する学問である。 講義では第一に、呼吸・消化吸収・排泄や循環といった生命を維持するために必須の機能（植物性機能）について学ぶ。これらを調節する大切なしくみとして内分泌系（ホルモン）や神経（主に自律神経系）についても学習する。第二に、身体の外部に対して働きかける機能（動物性機能）について学ぶ。このような機能として、外界の環境情報を伝える感覚器系や運動系（骨格系・筋系・神経の運動機能）が挙げられる。さらに、身体機能を統合する上で重要な中枢機構や脳の高次機能として記憶や睡眠のメカニズムについても学んでいく。



授 業 科 目 の 概 要				
(保健医療学部口腔保健学科等)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
歯・口腔の構造と機能	口腔解剖学	口腔は消化器系の一部であるが、鼻腔、咽頭といった呼吸器系の機関が存在している。さらに、その周囲には神経、血管、骨、筋など重要な機関や存在する。そのため、これら周囲の構造を理解し、顎口腔系領域の解剖を習得する。つづいて、歯と周囲組織の解剖学について、詳細な構造と物質の特徴を理解する。歯科衛生士の業務として、個々の歯の見える部分をもとより、見えてない組織の立体的な形態と特徴、機能について理解する。同時に行う演習実習において、歯の表記方法、個々の歯の鑑別、スケッチ、彫刻を行うことにより、歯の構造の理解を深める。		
	口腔生理・機能学	口腔生理学は、顎口腔系の機能を対象にした生理学の一部門であり、口腔領域を専門に扱う医療従事者にとっては必ず理解しなければならない内容である。すでに学んだ生理学の知識を基本とし、口腔領域の機能、すなわち歯、唾液分泌、味覚、口腔感覚、発声、咀嚼および摂食嚥下などの機能について学習する。これらの調節には全身同様に内分泌・神経系が関わっていることから、調節系について復習していくことも必修となる。歯科医療の目的は顎顔面口腔系の機能を健全に維持することであり、また機能障害の予防治療を行う上で基礎となることから、口腔生理学の理解が重要であるとの意識を徹底させたい。		
	口腔組織・発生学	口腔組織・発生学では、臨床歯科医学の基礎的知識として、口腔の組織とその発生を学ぶ。口腔組織学では、エナメル質、象牙質、歯髄、セメント質、歯根膜、歯槽骨、歯肉などの、歯と歯周組織の構造を理解し、口腔・顎顔面領域の疾病と治療を理解するための基礎的知識を修得する。口腔発生学では、人が受精卵から胎児になり出生するまでの過程を学び、そのなかで口腔の諸器官が形成され、歯がつくられ、萌出する過程を学ぶ。講義において随時到達目標を提示し、その場で理解と知識の定着を目指す。		
専門基礎分野	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	口腔病理・微生物学	病理学は、疾病の原因・機序・進展・転帰を示し、基礎医学と臨床医学を結び付ける学問で、その成果は、診断学だけでなく予防学にも応用されている。病理学は、主に臓器組織の形態学的変化の観察が中心であるため、正常な解剖・組織の知識も必要である。また、病理学から分岐した感染症の分野は、病原微生物学に発展し、さらに、生体防御反応の探究によって免疫学を勃興する等、医学の発展に影響を与え続けている。本授業科目は、病理学、微生物学、並びに免疫学の基本を示した上に、それらの学問を歯科医学に応用した口腔病理学と口腔微生物学（口腔免疫学を含む）の講義を行う。	
		生化学・栄養生化学	生化学は生命活動を分子のレベルで理解する学問である。からだの中では物質と物質の化学反応がダイナミックにかつ連続して行われている。これらの反応は統合的に制御され、最終的に生体調節が行われており、その仕組みを理解することが重要である。講義では生体を構成する成分の構造と性質から始まり、食物から摂取された栄養素が酵素によりどのように分解され、生きるためのエネルギーとなるのか、またからだの構成物質に作り変えられるのかについて講義する。次にこれらの生体化学反応がホルモンなどによりどのように制御され、恒常性が維持されるのかについて講義する。さらに、これらの知識を踏まえ、口腔保健医療に必須の硬組織の代謝、唾液、う蝕、歯周病について生化学的観点から講義を行う。	
		薬理学・歯科薬理学	薬理学は疾病の治療に欠かすことの出来ない、薬物に関する知識を習得する学問である。総論として、一般的な薬物に共通する薬物動態学（投与した薬物の吸収、分布、代謝、排泄）や、薬力学（作用機序や用量と薬効の関係や薬物の相互作用など）を学習する。その後、各論では歯科治療に用いる薬物に関してのみならず、全身疾患治療薬に関しても作用機序や副作用について学習する。特に、超高齢社会を迎え、患者の高齢者比率は高くなり、それに併せて患者が高血圧症治療薬などの全身疾患治療薬を常用している確率が高くなっていることから、歯科疾患治療薬とそれらの全身疾患治療薬との併用によって生じる副作用についても理解を深める必要がある。	

授 業 科 目 の 概 要				
（保健医療学部口腔保健学科等）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門基礎分野	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	口腔衛生学	歯科医療従事者として歯科衛生士には歯科医療及び保健指導を掌ることによって公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保するという任務がある。歯科医療は臨床であり、保健指導には患者さんに対する個別で臨床的な保健指導から、学校保健や地域保健のような集団に対する保健指導もある。これらの臨床的な個別支援と集団に対する支援の両方の支援をもって国民の健康な生活を確保することが歯科医療チームの一員として歯科衛生士に求められる。そのためには、口腔の健康を維持・増進し、口腔疾患を予防し、口腔の機能を保持・増進するために必要な知識を理解・習得させる。さらに人類の口腔保健の向上を図るには、個人、家族レベル、さらに地域社会レベルへの拡大が必要である。このためには、衛生学・公衆衛生学を基礎として、基礎医学・基礎歯科医学・臨床歯科医学ならびに社会医学および社会歯科学の知識を応用し、総合科学として教育することを目標とする。	
		公衆衛生学	公衆衛生学は社会医学領域に含まれる一分野で、社会のなかで医学（歯学を含む）の機能を客観的にとらえた上で、医学と社会を不断なく連結する役割を果たしている。従って、疫学、統計学、社会学、政治経済学を土台にして、広い視野で治療・予防・健康をとらえる学問である。つまり、より多くの人々の幸福のために、個々の患者だけではなく、広く人々の健康と予防を支援する制度や事業を対象とする学問である。本授業科目は、人口・生活・医療・社会・自然などの環境の実態を示しながら、保健予防事業と医療制度等、医学・歯学が社会とかがかわる領域の講義を行う。	
		介護福祉	セーフティネット機能を有する社会保障制度は、人の生活を支え、基本的な安心を与えている。日本は、超高齢社会を迎え、介護福祉の重要性が示されている。このような現状の中、国は、高齢者の生活と尊厳を守るために、介護予防・日常生活支援を中心とした地域包括ケアシステムの実現を目指している。このケアシステムの推進に、医療・介護・福祉・地域保健の各制度の連携が重要である。本授業科目は、歯科衛生士の法的な位置付けから始まり、社会保障制度として地域保健、医療保険、介護保険等の各制度を教授する。	
		臨床医科学	歯科衛生士は、歯科診療中に遭遇する緊急処置を要する可能性があり、診療場面において患者さんとの会話にも内科的な知識を身に着けておくことは重要なものとなっている。本臨床医科学では、豊富な疾患を用意し、やさしく解説を行い、全身疾患および口腔と重要な関連に対して理解を深める。 循環器疾患（高血圧、不整脈、虚血性心疾患、慢性腎臓病） 代謝性疾患（骨粗鬆症、糖尿病、甲状腺疾患） 消化器疾患（肝炎、肝硬変、消化性潰瘍、腸疾患） 脳神経疾患（脳卒中、認知症、パーキンソン病、てんかん、頭痛、睡眠障害） 血液疾患（貧血、がん） 腎泌尿器疾患（IgA腎症・アミロイドーシス・アルドステロン症・精神神経疾患（統合失調症、うつ病） 内分泌疾患（先端巨大症、下垂体機能低下症、甲状腺機能亢進症）など。	
専門分野	歯科衛生士概論	口腔保健学概論	歯科衛生士は、歯科疾患の予防処置、歯科診療補助および歯科保健指導を主な業務として実施する専門職であり、保健・医療・福祉に幅広く関わる職種であることを理解するとともに、論理的思考、医療倫理、医療安全管理およびチーム医療等について教授する。また、歯科衛生士が業務を実践する歯科臨床を見学実習することにより、歯科衛生士は口腔の健康を通じて全身の健康を保持・増進する職業であることを自覚するとともに、自身が目標とする歯科衛生士像を明確化し、能動的に立案した学修目標にもとづく学修計画にしたがって自らの理想とする歯科衛生士像をつくりあげる。	共同
	臨床歯科医学	臨床検査・放射線学	臨床検査学：歯科臨床を行う上で重要な臨床検査について講義を行う。講義は生理検査として体温、脈拍、血圧の測定法を理解する。また、主要な臨床検査法として尿検査、血液の方法とその意味、必要な器材の使用法を理解・修得する。これにより歯科治療のチーム医療の一翼を担うことが可能となる。 歯科放射線学：歯科臨床に必須の画像検査について基礎、臨床放射線学を講義する。始めに放射線に関する物理学、化学、生物学を学ぶ。次にエックス線画像の成立、各種撮影装置、デジタル画像システム、診断を講義し、放射線の重要課題である放射線防護についてその体系（生物学的影響、放射線障害）、各種法律について講義を行的確な診療及び補助を修得する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（保健医療学部口腔保健学科等）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門分野	臨床歯科医学	歯科保存学	保存修復学では、歯の硬組織欠損や形態異常に対して人工的な修復材料を用いて形態的、機能的および審美的な回復を行う学問である。そのため、硬組織欠損の病態の理解と診断について習得する。さらに、修復方法、修復材料および使用材料や薬剤に対する基礎的な事項を習得し、歯科診療補助が実施できる知識を得る。歯内療法学については、歯の硬組織疾患から継発する歯髄疾患と根尖性歯周疾患について、病態を理解する。これら疾患に対する予防法、治療法の基本的概念、使用する器具、材料および使用薬剤の基礎的な事項を習得する。歯周治療学では、正常な歯周組織について学ぶとともに、臨床的な病態のメカニズムに関する知識を得る。そのほか、患者への指導、ブラークコントロール、ブラッシングなどの予防処置と重要性、歯周基本治療に使用するスケーリング、ルートプレーニングなどの器具と方法について習得する。また、歯周外科処置の種類と適応、治療後の口腔機能の安定と維持、メンテナンスについて学ぶ。	
		歯科補綴学	歯科補綴学は、歯の実質欠損、喪失した歯ならびに周囲組織を補綴装置により回復し、口腔機能および審美性について改善・回復することを目的とする。そのため、本授業では、顎口腔系の正常構造と機能、その役割について概説する。次に歯冠部欠損ならびに欠損歯列における病因・病態論、その検査法、診断法、治療計画について概説する。さらに生体に調和した補綴臨床術式と補綴装置製作の技工術式について概説するとともに補綴歯科診療における歯科衛生士の役割について教授する。	
		口腔外科・麻酔学	口腔・顎顔面領域の疾患の特徴と診断および治療法ならびに歯科麻酔学では歯科治療における全身管理、精神鎮静法、局所麻酔および全身麻酔の基本を学習する。また放射線治療と化学療法患者の口腔保健管理などにも触れ、最新の治療器具・薬剤などとともに紹介する。臨床現場でも対応できるようなことも踏まえ内容を理解させる。 総論 ①口腔外科の重要性②口腔外科小手術に用いられる器具③検査と治療法 ④滅菌・消毒と感染症対策 各論 ①先天異常と発育異常②顎顔面の損傷③口腔粘膜疾患④炎症⑤嚢胞⑥良性腫瘍⑦悪性腫瘍⑧顎関節疾患⑨唾液腺疾患⑩神経疾患⑪血液疾患など。	
		小児・矯正歯科学	前半は小児の心身の成長・発育と口腔領域の機能の発達、成長期の歯科治療、小児患者への対応など小児歯科臨床に必要な基本的知識を説明する。後半では、矯正歯科治療の概要、成長・発育、正常咬合と不正咬合、矯正歯科診断、矯正歯科治療と矯正力、矯正装置と矯正器具について理解し、症例を提示し不正咬合の問題点の資料採得や分析について説明する。 （オムニバス方式／全15回） （4. 吉川正芳・6. 渡部茂／1回）（共同） ガイダンス（授業の概要・到達目標と授業の学修方法等の確認） （6. 渡部茂／7回） 多職種が連携する総合的な子育て支援が行われている中で、その一領域、「小児の口腔保健」を担う歯科医療従事者としてふさわしい知識と技術を身につけることが本講義の目的である。 胎児期から成人に至るまでの口腔領域の形態と機能の成長・発達、疾病、予防に関する基本的知識を修得し、口腔の健康が全身の発育の基礎となっていることを理解する。 （4. 吉川正芳／7回） 歯科衛生士と歯科医師が基本的な知識を共有し協力的に治療を進めるために、矯正歯科治療の概要、成長・発育、正常咬合と不正咬合、矯正歯科診断、矯正歯科治療と矯正力、矯正装置について教育・研究を行います。さらに臨床で歯科衛生士が行う手技を説明し、臨床現場での業務の内容が容易に理解できるよう教育を行います。	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要				
(保健医療学部口腔保健学科等)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門分野	臨床歯科医学	高齢者・ スペシャルニーズ 歯科学	<p>授業の初回にガイダンスを実施し、授業の概要・到達目標等のアナウンス等を行う。前半は高齢者歯科について講義を行い、後半はスペシャルニーズ歯科学として何らかの障害を有する方に対する歯科保健医療について講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6. 渡部茂・9. 岡本和彦/1回) (共同)</p> <p>ガイダンス (授業の概要・到達目標と授業の学修方法等の確認)</p> <p>(9. 岡本和彦/7回)</p> <p>高齢者を対象として心身の加齢変化や基礎疾患を配慮し、歯科診療に関わるために必要な全身的ならびに口腔内における病因・病態、その検査法や診断法について概説する。また、歯科診療における歯科衛生士の役割や口腔保健管理・歯科保健指導について概説するとともに要介護高齢者に対する歯科衛生士の役割や訪問歯科保健指導についても教授する。</p> <p>(6. 渡部茂/7回)</p> <p>本授業では、精神や身体の障害について、また障害を有する人にみられる歯科疾患の特徴、原因と症状を理解し、これらの人に対する歯科医療の基本について講義する。</p> <p>具体的には障害を有する人の、社会的な環境、家庭内生活環境、口腔機能、食生活、咀嚼と嚥下といった生活の基本事項について、QOLの向上とノーマライゼーションを実践するための知識、方法について学ぶ。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部)
		摂食嚥下 リハビリテーション学	<p>口腔機能が正しく営まれていることは、ヒトの生命維持に寄与しているばかりでなく、快食、快眠、快話に大きく貢献している。楽しく家族、友人と食事する、楽しい会話をする。また精神的に悩みなく眠りに就けることは、全身的なことはもとより、歯や歯周組織および口腔が健全に保たれ、機能しているからである。言い換えると、口腔は摂食嚥下、味覚、呼吸、構音など多くの機能を有しており、障害や加齢による低下を予防するために摂食嚥下リハビリテーションの知識を学ぶ必要がある。</p> <p>① 口腔機能 (摂食嚥下機能を含む)</p> <p>② 口腔および咽頭、喉頭の構造</p> <p>③ 摂食・嚥下機能の発達</p> <p>④ 摂食・嚥下障害 (小児・高齢者)</p> <p>⑤ 摂食・嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生士の役割</p> <p>⑥ 摂食・嚥下リハビリテーションと口腔ケア</p> <p>⑦ 摂食嚥下訓練 (直接・間接)</p> <p>⑧ 摂食・嚥下障害に対する食指導・支援</p> <p>⑨ リスクマネージメント (合併症など)</p> <p>⑩ 摂食・嚥下リハビリテーションにおける連携</p>	
	歯科予防処置論	歯科予防処置論Ⅰ	<p>う蝕の病因や病態を学修するとともに、宿主・病因・環境の因子を相互関係性を論理的に理解する。また、多様な対象者の口腔内状態をアセスメントし必要な、う蝕予防処置について、宿主に対する抵抗性付与、plaque control、ならびに糖質摂取指導法などを具体的に学修する。また、PMTCを中心とする専門的ケアなど口腔清掃法に必要な器具・器材を選択して、実施、評価できる基本的な知識・技術・態度を教授する。</p>	共同
		歯科予防処置論Ⅱ	<p>歯周疾患の病因や病態を学修するとともに、宿主・病因・環境の相互関係性を論理的に理解する。また、多様な対象者の口腔内状態をアセスメントし、必要な歯周疾患予防・治療や口腔衛生管理に必要な器具・器材を選択して、実施、評価できる基本的な知識・技術・態度を教授する。</p> <p>特に医療保険での「歯周疾患治療の流れ」に沿った対応も可能となるようにプロービングをはじめとした歯周検査法、スケーリングやSRPについてマネキン等も使用して器具器械操作も学修する。</p>	共同
	歯科予防処置実習Ⅰ	<p>歯科予防処置論Ⅰでの学修を基に、う蝕予防法とその具体的な処置方法に関する理論と実践および、歯・口腔の健康を維持・増進させるために必要な専門的知識・技術・態度について、実習を通じて学修する。また、相互実習においては、臨床現場を想定しながらう蝕予防法の術式についてより実践的に教授する。</p>	共同	
	歯科予防処置実習Ⅱ	<p>歯科予防処置論Ⅱでの学修を基に、歯周疾患の予防および治療に関する理論と実践および、歯周疾患の予防および口腔衛生の向上のために必要な専門的知識・技術・態度について、実習を通じて学修する。また、相互実習においては、臨床現場を想定しながら、歯への付着物を機械的操作によって除去すること、歯や口腔に対して必要な薬物を塗布することや再付着を予防するための術式・手技をより実践的に教授する。</p>	共同	

授 業 科 目 の 概 要				
(保健医療学部口腔保健学科等)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門分野	歯科予防処置論	臨床歯科衛生活動論	歯科衛生士の臨床実践力を培う専門的思考法である歯科衛生臨床のプロセスを理解する。すなわち、歯科衛生アセスメント・歯科衛生診断・歯科衛生計画立案・歯科衛生介入・歯科衛生評価および書面化について学修する。さらに、症例を通じて様々な理論モデルを用いた歯科衛生アセスメントの実践、歯科衛生診断、歯科衛生計画立案を比較検討することで、この専門的思考法を実践できる基礎的能力を身に付け、科学的思考法を育成するとともに、応用力・実践力を教授する。	
		口腔保健管理学実習	齲蝕予防や歯周疾患治療および予防、口腔衛生管理や周術期口腔機能管理などの症例を通じて、口腔保健管理を実践できる基礎的知識・技術・態度を身に付け、科学的思考や判断力を育成するとともに、応用力・実践力を教授する。また、症例を通じて、口腔内の状態を記録し、口腔保健管理のプレゼンテーション技術を学修する。	共同
	歯科保健指導論	歯科保健指導論Ⅰ	健康教育の概念や行動変容理論を学修する。また、口腔保健向上を目的とした歯科保健指導、健康教育を実践するための流れを理解するとともに、その手法を修得する。加えて、歯科保健指導を行うための基礎として、口腔の観察・評価方法や専門的な口腔健康向上を図るためのブラッシング法、口腔清掃用具あるいはプロフェッショナルケア等についての知識や、歯科保健指導を行うために必要な情報の種類とその収集法およびコミュニケーション技術について学ぶ。	共同
		歯科保健指導論Ⅱ	対象別の歯科保健指導、健康教育の要点や指導方法について学修する。また、様々なライフステージや口腔状況に応じた指導を実践する能力を育成するために、各ライフステージごとの対象者の特徴を理解し、模擬症例を基に、問題点の抽出や口腔保健指導計画立案の実践方法を学ぶ。さらに、口腔保健教育の一つとして、食生活指導を実践するための基本的知識を修得する。さらに、乳幼児期から高齢者までの生理的変化も知識として確立しながら学修を進める。	共同
		歯科保健指導実習Ⅰ	様々な口腔清掃用具を用いた口腔清掃実習を行い、口腔衛生管理技術の修得を目指す。また、相互実習やロールプレイングを通して、情報収集のためのコミュニケーション技術を習得する。さらに、対象集団の特性と課題を理解するための知識、技術を身に付けることを目的に、行動理論モデルを用いた質問紙作成を行う。	共同
		歯科保健指導実習Ⅱ	各ライフステージの特性に合わせた口腔保健教育を実践するための技術や態度の修得を目指し、模擬症例を基に立案した口腔保健指導計画について、プレゼンテーションおよびロールプレイング実習を行う。また、地域における口腔保健教育活動を展開する能力を身に付けるために、実施計画に基づいた指導案作成や媒体作成、口腔保健教育の実践を行い、効果的な健康教育の実施に必要な知識、技術、態度を修得する。	共同
		摂食嚥下リハビリテーション実習	摂食・嚥下機能の発達および障害の状態を適切に評価し、対象に応じた介入方法を選択して実践する能力を身に付ける。また、歯科衛生士としての専門性を生かした関わり方について考えを深め、多職種と共同して摂食・嚥下リハビリテーションを実施するための知識・技術・態度を修得する。基本的には、摂食の姿勢、食具などの具体的な内容の理解を図る。	共同
		歯科診療補助論	歯科診療補助論Ⅰ	歯科衛生士の三大業務の一つである歯科診療補助を行うために必要な基本的知識を修得する。歯科診療で扱う各歯科用材料の材料学的特性や取り扱い方法、生体への影響などを学ぶ。また、スタンダードブリーチングの考え方を基本として徹底した感染防御対策を学修する。安全な歯科医療を提供するために必要な歯科医療安全管理や院内感染対策の方法について理解を深める。
	歯科診療補助論Ⅱ		歯科医療における様々な歯科診療補助の基本的知識を修得する。安全で効率的な診療を行うための共同動作の概念を理解する。また、各治療の特徴を理解し、診療の手順や必要器材、診療補助の概要について学ぶ。チェアサイドでの歯科診療は基本的にフォーハンドによる医療であり、診療補助の重要性は言うまでもない。一方、外科処置に対しては、専用器具や施術方法にも熟知している必要がある。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学部口腔保健学科等)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野  歯科診療補助論	歯科診療補助実習Ⅰ	円滑なチーム歯科医療を実践できる医療従事者を目指して、診療補助に関する知識・技術・態度を習得する。スタンダードプリコーションの考え方を基本として徹底的に感染対策の基本をマスターする。また、手洗いや器具の消毒・滅菌などの院内感染対策や、器具の取り扱いなどの基本的技能を身に付ける。また、安全で効率的な診療を行うための共同動作を実践する。	共同
	歯科診療補助実習Ⅱ	診療室の管理や歯科用材料の取り扱い、ラバーダム防湿、印象採得、模型作製や治療前準備としての隔壁法、歯肉圧排法等の実習を行う。全員が確実に技術を修得できるように各単元毎に実技チェックを行い、基礎実習から相互実習、そして患者実習と実際の臨床現場を想定し、徹底した技術指導を行う。また、患者が安心して治療を受けることができるポジショニングを始めコミュニケーションスキルを含めて患者対応の知識・技術・態度を修得する。	共同
	歯科診療補助実習Ⅲ	診療補助の総括として、患者との挨拶、そしてチェアユニットへの誘導と着席にはじまり、診療予定に従った器具機械の準備調整、さらには処置内容に基づく事前の口腔内処置などを実践的に行う。患者をチェアユニットに誘導した後の問診についてもコミュニケーションスキルと自分の患者とのポジショニングを適切にとることも大切である。診療に関しては、各診療内ごとに、手順と器具や材料を用意しておき、診療の中断を避けるようにしたい。	共同
	チーム歯科医療学実習Ⅰ	地域における歯科医療および歯科保健活動を担う開業歯科医院の役割や歯科専門職の専門性を相互理解するとともに、歯科衛生士の役割や機能を学修する。また、在宅療養者に対する訪問歯科診療において多職種との連携にあたり、各職種の役割や専門性・機能を相互理解できるよう教授する。 講義においては、地域の歯科医療機関、小児歯科、障害者歯科、矯正歯科などの専門家による講義と各分野における特徴や特徴に応じた配慮等について実習を組み合わせた形式で展開する。また、高齢者や慢性疾患を有する方や在宅における歯科医療の展開には、医師、看護師とのチーム医療連携は必須である。職種における役割や専門性・機能および歯科医療との連携について、臨床実践および実務経験にもとづき教授する。なお、地域包括ケアの要となる医師・看護師については、特に在宅医療における指導内容について学修する。 (オムニバス方式／全15回) (1-9、11、13-15 金久弥生／13回) チーム歯科医療学実習Ⅰの教授と全体の総括を行う。 (10 長谷川彰彦(医師)／1回) 在宅医療における医師の役割や専門性および臨床実践の実際の教授を行う。 (12 眞鍋知子(看護師)／1回) 歯科治療および在宅療養における看護師の役割や専門性、臨床実践の実際の教授を行う。	オムニバス方式
	チーム歯科医療学実習Ⅱ	病院や施設（高齢者・障害者等）など様々な療養施設環境において実施される口腔衛生管理や周術期口腔機能管理、口腔機能の向上などの口腔健康管理や摂食嚥下リハビリテーション、食事支援や日常療養生活支援等のチーム医療の実践における歯科衛生士の役割や機能を学修する。また、これらに関わる職種との連携にあたり、各職種の役割や専門性・機能を相互理解できるよう教授する。 病院や施設現場で共同して業務を行う可能性のある医師、看護師、理学療法士との相互理解は連携を図るために重要である。これら専門職種の役割や専門性・機能および口腔の衛生管理における連携について、各職種の立場から臨床実践および実務経験にもとづいた教授を行う。 医師・看護師・理学療法士については施設ケアの観点から教授する。なお、科目担当者は介護支援専門員（ケアマネージャー）として実務経験を有している。 (オムニバス方式／全15回) (1-6、10-15 金久弥生／12回) チーム歯科医療学実習Ⅱの教授と全体の総括を行う。 (7 長谷川彰彦(医師)／1回) 摂食嚥下障害および食事支援における医師の役割や専門性、臨床実践の実際の教授を行う。 (8 眞鍋知子(看護師)／1回) 口腔健康管理および食事・日常生活支援における看護師の役割や専門性、臨床実践の実際の教授を行う。 (9 山之口美喜生(理学療法士)／1回) 口腔健康管理および食事・日常生活支援における理学療法士の役割や専門性、臨床実践の実際の教授を行う。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
（保健医療学部口腔保健学科等）				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門分野	臨床実習（臨床実習を含む。）	口腔保健学臨床臨床実習Ⅰ	臨床臨床実習の第1段階としての本科目では、これから実施される臨床臨床実習全般に対するオリエンテーション、歯科診療実習に向けたグループごとのオリエンテーションを行う。全体オリエンテーションでは、実習の目的・目標、実習科目と実習計画・単位数、実習方法、提出物、単位認定基準および注意事項について指導を行う。グループごとのオリエンテーションにおいては、それぞれの実習先の機能や特性等独自の事項について説明を行うとともに、全体オリエンテーションで行った重要事項を再確認させる。2年次に行った基礎実習内容（歯科予防処置実習、歯科保健指導実習および歯科診療補助実習）において不十分であった部分について補足を行う。また、今日の歯科医療に欠かすことのできない「口腔インプラント学」に関する演習も本科目内で行う。専門基礎科目および専門科目で学んだ理論と技術をもとに、歯科診療現場において実習を行う。 とくに本科目では、歯科衛生士の主要業務である「歯科予防処置」「歯科診療補助」「保健指導」を中心に、様々な現場における歯科衛生士の役割と業務を理解し、歯科衛生士としての実践力を学ぶとともに、他の歯科医療従事者や患者とのコミュニケーション能力を養う。さらに、臨床臨床実習中および実習後のカンファレンスを行うことによって、実習における知識や情報の共有と理論ならびに技能の整理を行う。なお、歯学部付属病院各診療科およびPDI歯科診療所（3歯科診療所）の実習は、グループ編成によるローテーション形式で行われ、当該施設による実習は全学生が必ず経験する。（PDI:Post-Doctoral Institute of Clinical Dentistry; 歯科医師臨床研修機関）	共同
	臨床実習（臨床実習を含む。）	口腔保健学臨床臨床実習Ⅱ	歯科診療における臨床臨床実習Ⅰは、歯科衛生士の主要業務である「歯科予防処置」「歯科診療補助」「保健指導」を中心に、歯科医療従事者の一員としてチーム歯科医療について実践するとともに、他の歯科医療従事者や患者とのコミュニケーション能力を養うことを目的としている。臨床臨床実習Ⅱにおいては、高度先進歯科医療を学ぶためのプログラムが設定されている。とくに付属病院実習においては、口腔外科・麻酔科、障がい者・地域医療連携センター、摂食嚥下科での実習および口腔外科関連の全身麻酔下での手術見学・病棟実習が組み込まれている。本科目のねらいは、様々なニーズを持つ人を理解し、口腔を通じた健康づくりを支援する基本的知識と実践力を身につけること、そしてニーズに応じた支援を考えだす過程と実践の内実を経験することにある。本科目の実習は、グループ編成によるローテーション形式で行われ、すべての学生がこれを経験する。	共同
	臨床実習（臨床実習を含む。）	口腔保健学臨床臨床実習Ⅲ	高齢社会の進展とともに心身の不調を訴え、社会生活を送るうえで自立が困難な要介護高齢者が増加している。臨床臨床実習Ⅲでは、これらの人々の口腔保健の維持・向上に寄与するための対応法、すなわち専門的口腔ケアや摂食・嚥下障害を含む様々な生理的および病的な口腔機能の加齢変化を理解し、歯科医療に何が求められているかを学ぶ。他方、小学校における保健活動の一環として、口腔からの健康を通して全身の健康づくりに寄与できる児童へのポピュレーションアプローチとしての歯科衛生指導を理解し、実践力を学ぶ。本科目のねらいは、口腔機能の加齢変化および学童期にある子どもの特徴と口腔の状態を理解し、それぞれの状況下において実際に役に立つ歯科衛生指導を考案し、実施する実践力を養うことにある。本科目の実習は、グループ編成によるローテーション形式で行われ、すべての学生がこれを経験する。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部口腔保健学科等）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合演習	歯科総合演習	<p>前期では主に1・2年次で学修した専門基礎分野科目である「人体の構造と機能」「歯・口腔の構造と機能」「疾患の成り立ち及び回復過程の促進」「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み」に関する科目を有機的に統合し、歯科衛生士として総合的な学力を育成するために専門基礎分野科目の総括を行う。</p> <p>後期では主に2・3年次で学修した専門分野科目である「臨床歯科学」「歯科予防処置論」「歯科保健指導論」に関する科目を有機的に統合し、歯科衛生士として総合的な学力を育成するために専門分野科目の総括を行う。</p> <p>（オムニバス方式／全30回）</p> <p>(19 坂東康彦／3回) 解剖学、口腔組織・発生学の総括を行う。</p> <p>(18 溝口尚子／5回) 生理学、口腔生理・機能学、薬理学・歯科薬理学の総括を行う。</p> <p>(11 中村裕子／3回) 口腔解剖学、歯科保存学の総括を行う。</p> <p>(8 竹下玲／3回) 口腔病理・微生物学、公衆衛生学、介護福祉の総括を行う。</p> <p>(10 友村美根子／1回) 生化学・栄養生化学の総括を行う。</p> <p>(14 宮澤慶／2回) 口腔衛生学の総括を行う。</p> <p>(5 茂木伸夫／4回) 臨床医科学、口腔外科・麻酔学、摂食嚥下リハビリテーション学の総括を行う。</p> <p>(7 奥村泰彦／2回) 臨床検査・放射線学、歯科診療補助の総括を行う。</p> <p>(9 岡本和彦／2回) 歯科補綴学、高齢者歯科学の総括を行う。</p> <p>(6 渡部茂／2回) 小児歯科学、スペシャルニーズ歯科学の総括を行う。</p> <p>(4 吉川正芳／1回) 矯正歯科学の総括を行う。</p> <p>(12 山村有希子／1回) 歯科予防処置の総括を行う。</p> <p>(2 金久弥生／1回) 歯科保健指導及び全体の総括を行う。</p>	オムニバス方式
卒業研究	卒業研究	<p>口腔保健を専門とする者にとって、リサーチマインドを持ち、正しい根拠に基づいた行動をとることはきわめて重要である。また、様々な場面で研究あるいは研究手技を必要とすることがある。本科目のねらいは、そのために必要な知識・技術・態度を習得することであり、知識習得型の授業から問題を発見し解決するための技術・方法を学び、論理的な思考能力、プレゼンテーション能力、さらにはあらゆる立場の人々とのコミュニケーションや礼節の素養を養い、実社会への準備をすることにある。研究にあたり、患者・対象者を守り擁護する研究倫理について学修し、研究者として、また医療専門職としての自律的な姿勢を培う。研究テーマについては、口腔保健分野に関する研究動向を文献調査によって行い、その調査法や実験法を選定し研究テーマを決定する。研究方法は、実験研究、調査研究、疫学研究、症例研究および文献研究などが想定される。</p>	



学校法人明海大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成 30 年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成 31 年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由		
明海大学				明海大学						
外国語学部				外国語学部						
日本語学科	80	—	320	日本語学科	80	—	320			
英米語学科	200	—	800	英米語学科	<u>160</u>	—	<u>640</u>	定員変更(△40)		
中国語学科	70	—	280	中国語学科	<u>40</u>	—	<u>160</u>	定員変更(△30)		
経済学部				経済学部						
経済学科	300	—	1,200	経済学科	300	—	1,200			
不動産学部				不動産学部						
不動産学科	180	—	720	不動産学科	180	—	720			
ホスピタリティ・ツーリズム学部				ホスピタリティ・ツーリズム学部						
ホスピタリティ・ツーリズム学科	200	—	800	ホスピタリティ・ツーリズム学科	200	—	800			
歯学部				歯学部						
歯学科	120	—	720	歯学科	120	—	720			
留学生別科				留学生別科						
日本語研修課程	65	—	65	日本語研修課程	65	—	65			
計	1,215	—	4,905	計	1,215	—	4,905			
明海大学大学院				明海大学大学院						
応用言語学研究科				応用言語学研究科						
応用言語学専攻				応用言語学専攻						
博士前期課程	15	—	30	博士前期課程	15	—	30			
博士後期課程	5	—	15	博士後期課程	5	—	15			
経済学研究科				経済学研究科						
経済学専攻				経済学専攻						
修士課程	15	—	30	修士課程	15	—	30			
不動産学研究科				不動産学研究科						
不動産学専攻				不動産学専攻						
博士前期課程	15	—	30	博士前期課程	15	—	30			
博士後期課程	3	—	9	博士後期課程	3	—	9			
歯学研究科				歯学研究科						
歯学専攻				歯学専攻						
博士課程	18	—	72	博士課程	18	—	72			
計	71	—	186	計	71	—	186			
				保健医療学部					学部の設置	
				口腔保健学科					(認可申請)	
				70					—	280